

「澤村知秀 元登校拒否児 現百合切花生産会社代表 不登校児の親 気分の波がある 43 歳」

よっしゃ、書いたぞ！と、勇んで書けば何も書けなくなる人が私です。どうもごきげんよう。久しぶりにペンを取ります。嘘です、スマホにフリック入力です。長らく書き物から離れておりましたが、とりあえず近付いてみようかと思えます。グッスリ近づいたら書く気がなくなるので自分をダメシダメシで距離をみてみようかと、そんな気分でございます。オーケーレッツラゴ一。

今回はひきこもりの定義を語ってみたい。定義なんて、なんてエラソーな事と思えます、ええ、不勉強な私が、定義の定義も知らない私が、語ってやろうと、そう思えます。もちのろんで、これまでの一般的な定義やそれぞれの賢い人が考えた定義は紹介しません。できません、やる気ありません、比較も検討もしない、オンリー私の脳内の言語化です。いいですね、ハードルは自分で下げていく、隙あらば逃走する、無責任の塊で書いていきます。

早速ですが私のひきこもりの定義は『自分の価値観の中に閉じこもっている状態(人)』です。声に出してみると、結構シンプルな定義ではなかろうかと思えます。どうでしょう、一般的な定義とは少し違うかもしれませんが、かなり違うかもしれません。私は長年ひきこもりとはなんぞや、と問うてきました。問うて、問うて、問うた果てに辿り着いたのがこの定義にはまっております。ええ、また適当な事を言ってしまいました。だいたいこんな感じかなあと閃いただけなんです。ろくに考えてはおりません。

理由はですね。

しばしば、いわゆるひきこもりの方の中には頑なで他者を受け入れたり人の話を聞き入れたりするのが難しい人がいます。妥当性があり論理的な指摘であっても受け取りは拒否されてしまいます。逆に否定的な言葉や批判にはこと敏感でベロツと頭に入れてしまう所がありますね。当人が望んでこの振る舞いをしているわけではないと思えますし周りの環境が当人にこの態度を強いている可能性も大いにあるでしょう。そうせざるを得なかったと言うところでしょうか。

実は、他者の意見に耳を貸さず批判には聴き耳を持つ方は、ひきこもりに関係なく広く一般にいます。私ももちろんその傾向があります。私のように管理職をやっているならば、どこかで決断しなければなりません。その時に他者の意見などほぼ無視します。自分ファーストで決断します。責任者ではない人の言葉など騒音でしか無いですからね。決断に至るまでには自分の考えをめぐらし調査したり時には他者の意見にも耳を貸しますが、ほぼ自分の考えより優秀な意見はないです。無責任な意見は散見されるんですが。。。決断後に誤った結果を招いた場合、ここでも無責任な他者の意見が介入してきます。こうすれば良かった、ああすれば良かった、などよく聞く話です。今更言っても仕方がない事を無責任に言う人はどこにでもいるようです。私の場合は批判

的な意見は基本スルーしますがあまりにもしつこい場合強く反論したりする事があります、言葉を選ばなければ逆ギレ論破でグチャグチャにします。まあ、あまりしませんが。

話が逸れました。管理職や責任者など、どこにでもいます。ちいさな会社や個人事業は無数にあるでしょう。人の話を聞かない人はどこにでもいて、批判に敏感ゆえに批判対策をしたり、意図して耳を貸さないようにしているのでしょう。

少し批判について書いておきます。

その昔、私はネコを飼っておりました。

ジイジの家からもらってきた2匹の子猫は家に到着と同時に逃げ出して裏山に消えてしまいました。夜も遅くなり探すのをあきらめて晩御飯を食べていると、ニャゴーニャゴーとあまり可愛くない鳴き声が外から聞こえてきます。ドアを開けると逃走犯の一匹が年貢を納めたのか自首してきました。あまりにも腹ペコだったのでしょうニャゴニャゴしゃべりながら晩餌を食いついていました。この子猫はジイジの家にいるときから臆病な奴で物音がすると飛び退いちゃうビビリキヤットでした。もう1匹の逃走犯は好奇心旺盛で元気な男の子です。残念ながら男の子の方は帰っては来ませんでした。残ったビビリキヤットをミーコと名付け育てる事にしました。ミーコは食い気だけは一人前でスクスクと太っていきました。ある冬の晩でした、とても寒かったミーコは暖をとろうと暖かい風呂場に向かいます。当時は風呂のお湯が冷めないように蓋をしていました。蓋の上はとても暖かく少々硬いけどミーコにとっては良いベッドです。いつものように窓から入り込み蓋のベッドに飛び乗ります、が勢い余って蓋がずれてしまいミーコは湯船にドボンしてしまいました。ものすごい勢いで湯船で暴れまわり風呂場からすっ飛んで逃げていきました。よほど怖かったのか、それから一生涯風呂場に近づく事はありませんでした。ミーコには身の危険を感じた事は強く記憶に残り続け行動を制限し続けたのでした。

この行動原理は、批判を受けた人ともよく似た所がないでしょうか。強く記憶に残り行動を制限してしまう。ミーコは臆病でしたが平均的な猫より長生きする事ができました。私はこう思います、危機回避能力は生物にもともと備わっていて生存を優先するが、それゆえに暖かい利益(得)を手放すこともある。死んだら元も子もないですからね。そして、この生き残る事に価値をおく、これが原初の価値観なのかもしれません。ミーコは何故湯船に落ちてしまったのかを考えませんでした。うまくやれば温まれるとも思いませんでした。勢いよく飛び乗れば蓋がずれるのでゆっくり乗れば温まれると考えるより、風呂場は危険だから近付かないようにしようと考えたのです。生き残る事に最大の価値を起きリスクを最大限とらずに安全と思われることしかやらない。ネコだから当たり前だと思えますかね。人間でも同じ所はないでしょうかね。批判を恐れるあまり批判から遠ざかるのが当たり前になってはないでしょうか。そして逆に自分の考える価値観に閉じこもるあまり、理解できない価値観を持つ者に批判を繰り返す側になってはないでしょうか。身にしみますねえ、ええとても。ミーコになりたくなってきました。

何が言いたいかわからなくなってきましたが、テキトーにまとめると誰でも自分の価値観の中で生きていて、別の価値観に変えたり、自分の価値観を壊したり、一旦風呂場で脱いでみたり、そんな事が難しいのです。生き残らなければ！という価値観は簡単に他の価値観に変えてしまうと

死ぬかもしれないので価値観そのものの性質は変化しにくいようになっているのではなかろうか、ああ、なかろうか。

でもでもでも、なかには何故だか危険を顧みず行動する者がいたり、リスクを冒してリターンを狙いに行く者がおります。彼らの価値観はギャンブラーのようなものでしょう。追いつめられて一発逆転を狙うのではなく、面白そうだから危険な事やヤバメな事をやっちゃう方々です。一般的では無い人達ですが、それゆえに異質な価値観を観察できたり、自分の価値観を再確認できるので、たまには交流を持つと楽しかったりします。そうなんです、様々な価値観に触れられるのは結構面白いもんです、客観視できるからこそなのですが違いを観察できるのは、知らない外国を旅した時のワクワク感のような物が得られるのかもしれませんが。単純にポケとツッコミのように、それいかんやろ、と価値観の狭間が笑えるのかもしれませんが。

価値観の違いが面白くもあると書きました、多くの場合は面白いのですが、そうでもないの時もあるのです。自分の価値観が試される時もやはりありますね。恋愛しかり、同居生活しかり、親類関係や近隣の間人間関係や、職場や学校生活なんかも試されちゃう事があります。濃淡はありますが関係を終わらせる事が難しい関係ほど試され度合いが上がってくるように思います。ホントは終わらせられない人間関係なんてないとは思いますが。周辺の間人間関係を無視できるほどタフな人はほぼいないでしょうから否が応でも価値観を試されちゃいますね。試されるつちゆうのは自分の価値観の変化の外圧や正当性の疑義が浮かび上がってくる状態でしょうかね。自分の事で少し話すと。妻と子供は物ダラケで少々散らかってても気にしない人達なんです私には物あんまり必要なくて、なるだけ少ない物で生活するのが心地良いと考えるタイプです。ミニマリストのようなもんですね。何度も引越をしているうちに、なんだか必要な物と重要な物、イラナイ物が判断できるようになり、ほぼイラナイ物で成り立ってた過去の生活を断つようになってきたからこんななっちゃいました。そんなもんだから過去の生活に戻るのが少々ストレスだったんです。ただ彼らはそうではない、生活を同一にしている私は自分の価値観を試される事になりました。最初は反発して、物がいっぱいあったら災害時の危険度が上がるとか、スペースがなくなって窮屈になったり転んで怪我しちゃうよとか、諭そうとしてました。残念ながら全く取り合ってもらえない。よくよく彼らを観察すると何も無い(ように見える)状態は不安を感じる、逆に物が沢山あることで安心感がある、高揚感がある、ということに気がつきました。彼らは彼らが許可し認めた物が周りにあることで自分を保護したり喜びを感じたりするようです。まさしく自分の価値観のど真ん中にある感覚でしょうか。この事実を理解してしまった私は指摘や諭を縮小するようにしました。彼らを追いつめているような気がしたのです。そして、彼らが少しでも片付けたりスペースを作ったりした時は、とても喜ぶ私を見せるように心掛けました。なかなか効果的で半分埋まりかけた廊下は2割ぐらいいまで減りました。おそらく物が多すぎるのは彼らも気が付いているのでしょう、わかっていることを追及されると反発したくなるという奴だと思われます。リアルに存在する物に頼らなければ安心感を得られないよりも記憶の中や考え方で安心感を得られる方がコストはかかりませんが、そこに到達するには時間や意識がどうしても必要です。そして全てをアタマの中で補うのも難しいものです。

自分事ですが物が必要な時代もあった事を思い出しました。ほんの少しですが自分の価値観を巻き戻しつつ現在の価値観にちょっぴり変化を加える事ができました。ええ、腹も立ちましたが。自分の価値観を試されましたし変化も感じます、この評価は将来に投げ出しますが、まあこんなもんやろうと思います。おそらく、人や事によって価値観が試される強度は違うでしょうが今回のモノダラケ事件ではもう一つ試された価値観がありますね。それは、この彼らと一緒にいる事は自分にとって価値があるかどうかです。この価値が大きいがゆえに部分的に価値観を加工できたのだと思われます。

とまあ、定義の話だったのに価値の話にすり替わり、気がつけば何が言いたいのか分からなくなる。いいですね、これぞ私の駄文でございます。平たくまとめると、私の言うひきこもりは人類みなそうであり、時々変化をし、またひきこもる。わざわざ目に見える状態だけで判断して分ける事でもないんじゃないだろうか。です。定義の理由とか忘れておきましょう。ええ、いいんです、どのみち何を書いたかなんて2週間もすればきれいさっぱり忘れられるので、これでいいのだ。

はい、では今回はこれまでにしちよきましよう。ついでに価値について、最近見たアニメがよかったので紹介しちよきます。「メイドインアビス」これです、原作漫画、テレビ2シリーズ、劇場版アニメ1作がある物語です。柔らかく優しげなキャラデザインですが中身は創作なのに過酷なほどリアルで、非常によく人間の内面性を表現しています。烈日の黄金郷では価値がテーマの一つになっており主人公の価値観が試されたり再確認したりする展開があります。とても面白かったのでオススメです。

おまけ『ガンさんの思い出』

私の生き方の先生の一人である。元吉さんが亡くなられて数か月が経ちました。ガンさんと知り合ったのは10年近く前、伊野の波川にといろがあった頃ですね。優しげな笑顔にメガネとキャップの出で立ちでタバコを吹かす姿はキャラが立ってるなあと思った事でした。私がたまに農園の手伝い行くときによく話しかけてくれたのを覚えております。時折ガンさんが招待してくれた八郎学級に参加させてもらうこともありました。その中でガンさんのインド旅行記を発表してくれた時、私の中で非常に心に残る体験を彼は話してくれました。私のおぼろげな記憶を頼りにその出来事を書いてみましょう。

当時ガンさんはインドのとある都市のホテルを拠点に生活していたそうです。近くの駅には大勢の乗降客がおり、周りには子供たちが旅行客達に「バクシーシ！バクシーシ！」(意味は、恵んで！)と声をかけてはついてきてたそうです。インドでは良くある光景でガンさんも相手にしてなかったそうです。その子供達のなかにある女の子がいて、いつもいつもついて来るので顔を覚えてしまう程になりました。いつもいつもだったのでガンさんも根負けして名前を覚えてくれたらアメちゃんをあげると返事をしてあげたようです。それから挨拶を交わしたり時折腰を下ろ

して会話するようになりました。話を聞くと家は貧しく家族は沢山いて両親はいつも仕事で家にいないそうです。そんな話を聞きながらいつの間にかガンさんとその女の子は友達のような関係になっていました。ある日、ガンさんがいつものように駅からホテルに帰ろうとした時、真剣な眼差しの男がガンさんに花を差し出してきたそうです。また物売りかと思い、通り過ぎようとした時、あの女の子が来て、「私のお父さん！」と紹介してくれました。女の子のお父さんは花を歩いて売る花屋さんで、彼は売り物の花を持って行けと、ガンさんに手渡したんだそうです。いいから持って行けと。明らかな外国の旅行者で自分達より裕福な人に、自分達は厳しい生活の毎日であるにも関わらず売り物の花を贈る。ここにどんな意味があるのか、私には非常に心に残りました。素直に考えれば子供と遊んでくれた礼といえるでしょう。そして、娘と対等に友人関係を持ってくれた敬意かもしれません。はたまた、娘との時間を持ってあげられない反省や後悔の意味があるかもわかりません。私はこの出来事から、与える人間でありたいと強く思いました。奪う人間でなく与えられる人間でありたいと、そう思える話でした。ガンさん自身もこの出来事をととてもよかったと言っていたのを覚えています。

ガンさんと最後に呑んだのは去年の夏ごろだったです。おんちゃんシリーズに目を通してくれていたみたいで褒めてもらいました。かなりの分量を書いているから、へばらないようにと、心配までしてもらいました。やはり優しい方です。病が進行し体もしんどいながら付き合ってもらった事に感謝です。

亡くなったと連絡があり通夜に行って来ました。眠るような優しいお顔は、いつものいつものガンさんでしたね。お棺には吸っていたタバコ、ピースが入れられていて Rest in Peace とかかったジョークのようにも思え、その場の悲しみの空気に対するアンチに感じさせてくれました。彼のアナーキーさが表現されているようでなんだかニヤリとさせてもらいました。ガンさんらしいなあと。

正直、悲しみよりもガンさんに出会えてよかったと思うことの方が強く、最後にはちゃんと酒を飲み語らせる時間までとってくれたので、ありがたいという気持ちがつぶりあります。気持ちを整理する時間までもらえる事に、私の優しい方という心象を最後まで貫いてくれました。何とも手本になる生き方だもんです。

最後に少しだけ皆さんに言える事があるならば「会いたい人には会いましょう」ですかね。コロナや社会情勢で動きにくい時であってもガンさんのアナーキーさをちょっぴりもらい自分の気持ちに素直に生きたいものです。

- おわり -